



シェアねっと登録ひとり親家庭における 『だれでも食堂』への関心と参加要因の調査

実施期間：2025年8月

調査対象：シェアねっと（ひとり親家庭への食品提供活動）登録者

分析執筆：松村 智史 先生

（名古屋市立大学 人間文化研究科・人文社会学部 准教授／横浜市立大学 国際マネジメント研究科 客員准教授）

調査概要

調査対象：シェアねっと（地域子育て支援拠点2箇所での食品提供）登録者※ 100名

調査方法：メールリングリストによる一斉配信、オンラインアンケート

実施時期：2025年8月

実施回数：1回

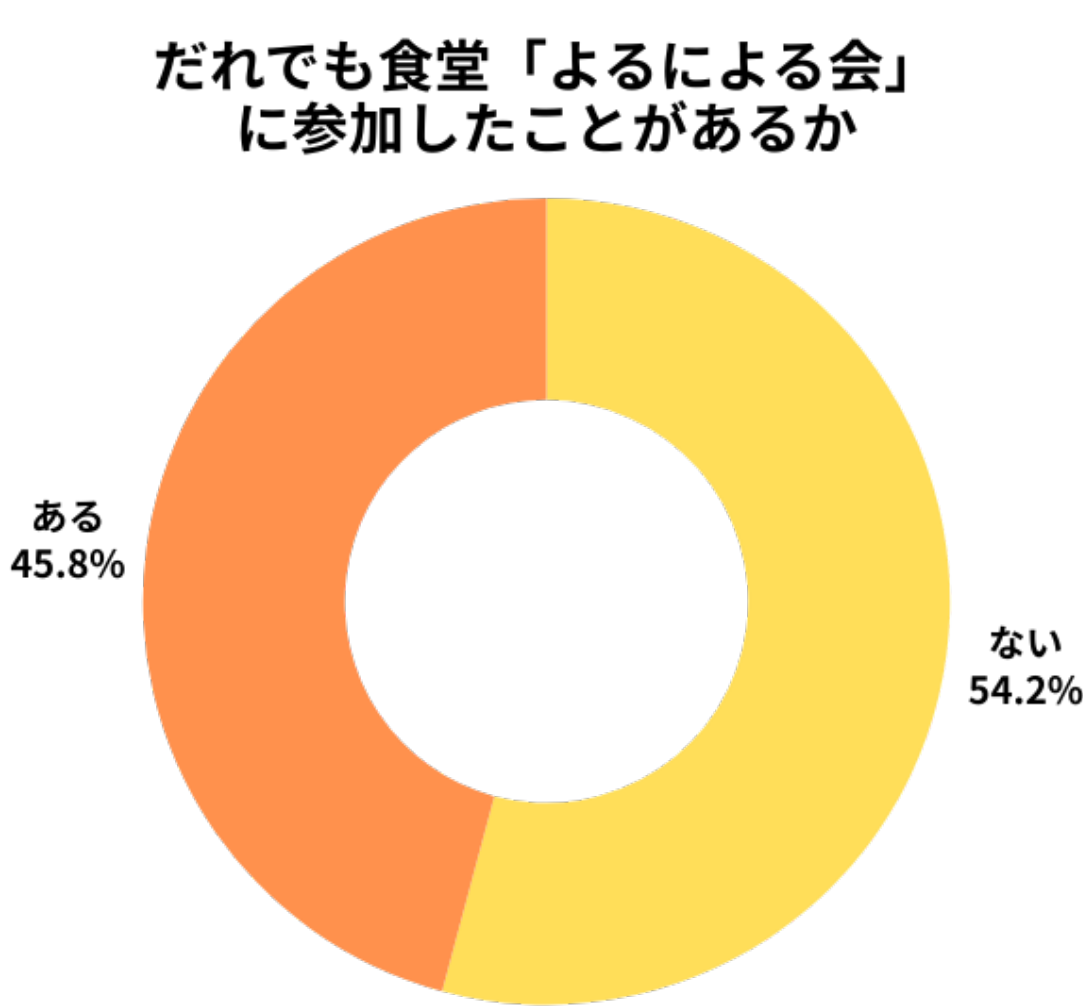
回答者数：24名

※シェアねっとは登録制となっており、毎月提供食品の紹介や情報をメールリングリストで発信している。現在の登録者数は約100名、食品を受取りに来る登録者は平均60名/月。

だれでも食堂「よるによる会」に参加したことはありますか？

シェアねっと（どろっぷやサテライトでの食品提供）を利用したことはありますか？

- だれでも食堂「よるによる会」に参加したことがあるかを尋ねると、54.2%が「ない」と参加し、「ある」（45.8%）を上回っている。
- 未参加者の理由は明確ではないが、参加に至らない背景には、時間的・情動的・物理的なハードルがあることがうかがえる。より多くの人に利用してもらうためには、情報発信の強化、時間帯の工夫、アクセスの改善など、参加しやすい環境づくりが必要であると考えられる。
- シェアねっと（拠点での食品提供）を利用したことがあるかを尋ねると、「ある」が100%となっている。
- シェアねっとと、よるによる会との併用により、食の安定と交流の場が結びつき、単なる支援にとどまらない包括的なサポートとして機能することが考えられる。
- 食材の提供と居場所支援が両輪となることで、家庭の生活を支える力が高まっており、参加者が継続して関わる基盤になることが重要である。

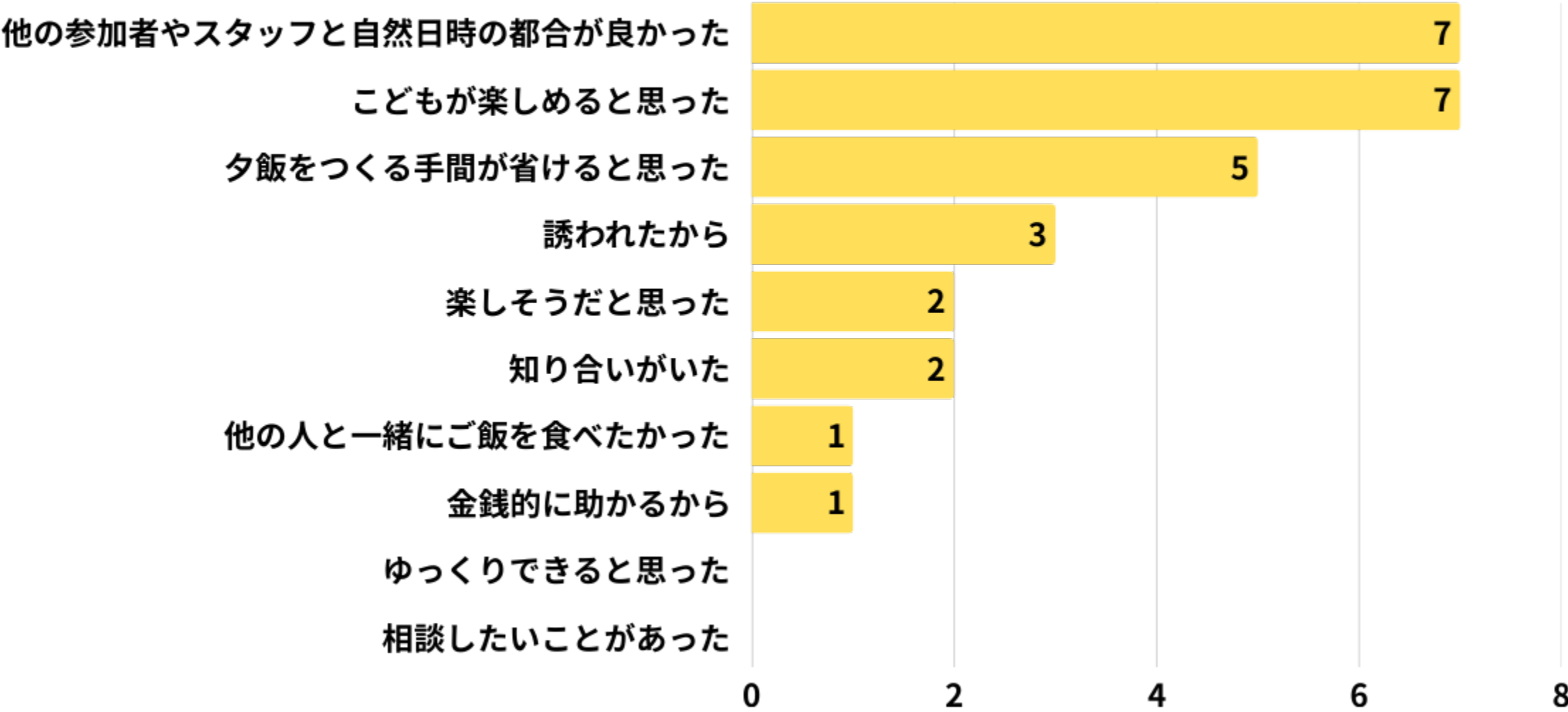


よるによる会に参加したことが「ある」と答えた方 参加しようと思った理由はなんですか？

■よるによる会に実際に参加した人からは、参加しようと思った理由として、「他の参加者やスタッフと自然日時の都合が良かった」、「こどもが楽しめると思った」、「夕食をつける手間が省けると思った」という肯定的な感想が多く寄せられている。

■しっかりした食事を提供してもらえることは大きな安心につながっていることが考えられる。さらに、会に参加することで、地域の人やスタッフと交流し、孤立しがちな生活に新しい人間関係のきっかけを見いだせる点も重要である。子どもが楽しそうにしている様子を見て、来てよかったと実感する親もあり、会が親子双方の気分転換の場としても機能していることがわかる。よるによる会は、食事提供だけでなく、地域社会との接点や交流のきっかけを提供する場としての意義を持っている。

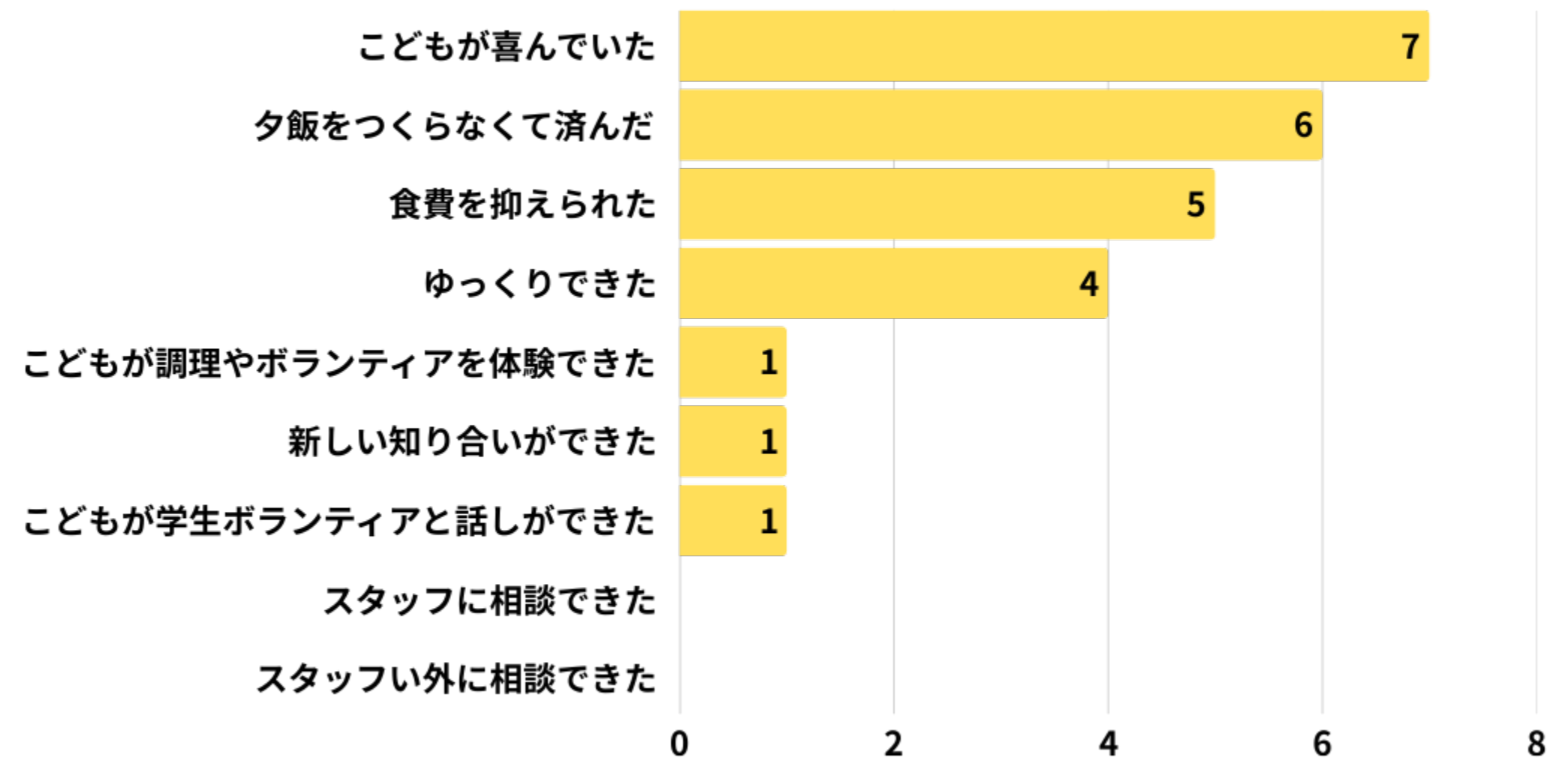
参加しようと思った理由（複数回答）



よるによる会に参加したことが「ある」と答えた方
参加してよかったと感じた事は何ですか？

■参加してよかったと感じたことについては、「こどもが喜んでいた」、「夕食をつくらなくて済んだ」、「食費を抑えられた」、「ゆっくりできた」という肯定的が続く。ひとり親家庭にとって、日常の食事を誰かと分かち合える体験や、子どもが楽しんで過ごす様子を見ることが大きな安心感につながっている。

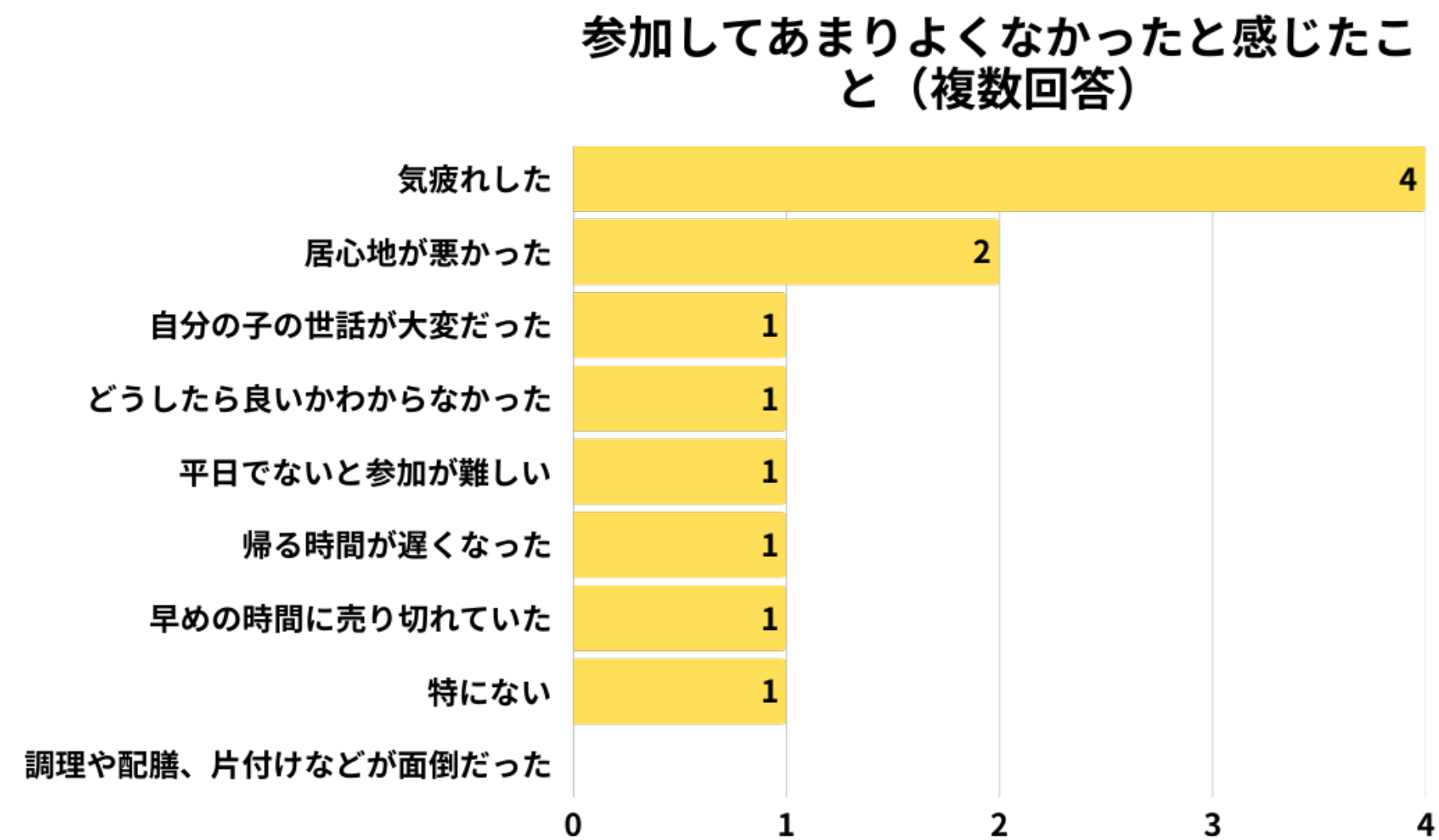
参加してよかったと感じたこと（複数回答）



よるによる会に参加したことが「ある」と答えた方
参加した際、あまりよくなかったと感じたことは何ですか？

■参加してあまりよくなかったと感じたことについては、「気疲れした」、「居心地が悪かった」といった点が指摘された。また、「自分の子の世話が大変だった」「どうしたら良いかわからなかった」「平日でないと参加が難しい」という声もあり、安心して参加できる仕組みづくりが求められている。

■食事の提供に加えて心理的な安心感や居場所の雰囲気はどう整えるかが課題である。会の価値を高めるためには、案内や雰囲気づくり、柔軟な運営方法の改善が重要だと思われる。



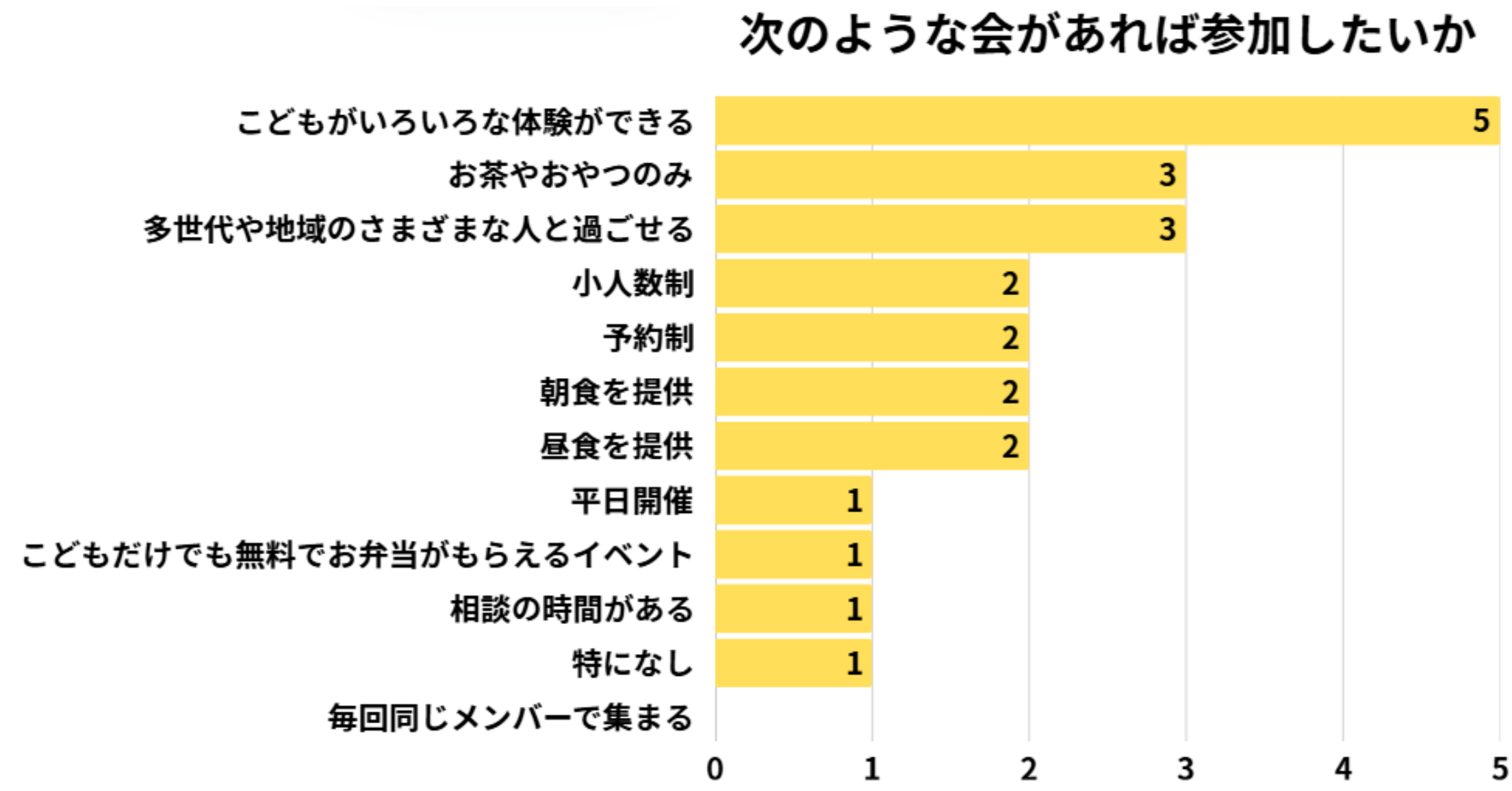
上記を選んだ理由：

- ・ 以前のような心理士がいて安心して語れる場でなくなった。
- ・ スタッフらしき人はたくさんいたが、カレーの他にポテトもあったらしいが特に案内されなかった。
2度目の参加だったが、どうしたらよいかイマイチ掴めなくてよく分からなかった
- ・ 普通に1人の休息が必要だと思った
- ・ 週末の夜は忙しいので
- ・ 焦らずに向かえるなら安心できる

よるによる会に参加したことが「ある」と答えた方
次のような会があったら参加したいと思いますか？

■どのような会があったら参加したいかを尋ねる問
いについては、「こどもがいろんな体験ができる」
「多世代や地域のさまざまな人と過ごせる」などへ
の要望がみられた。他にも、多様なニーズに対応し
た会の開催が求められている。

■子育てや仕事との両立に追われるひとり親家庭に
っては、時間帯や場所の柔軟性が参加の大きな条
件となっている。今後の展開においては、既存の夕
食会に加え、例えば、朝食会や平日日中など多様な
形式を取り入れることが、参加者の裾野を広げる可
能性を持っている。



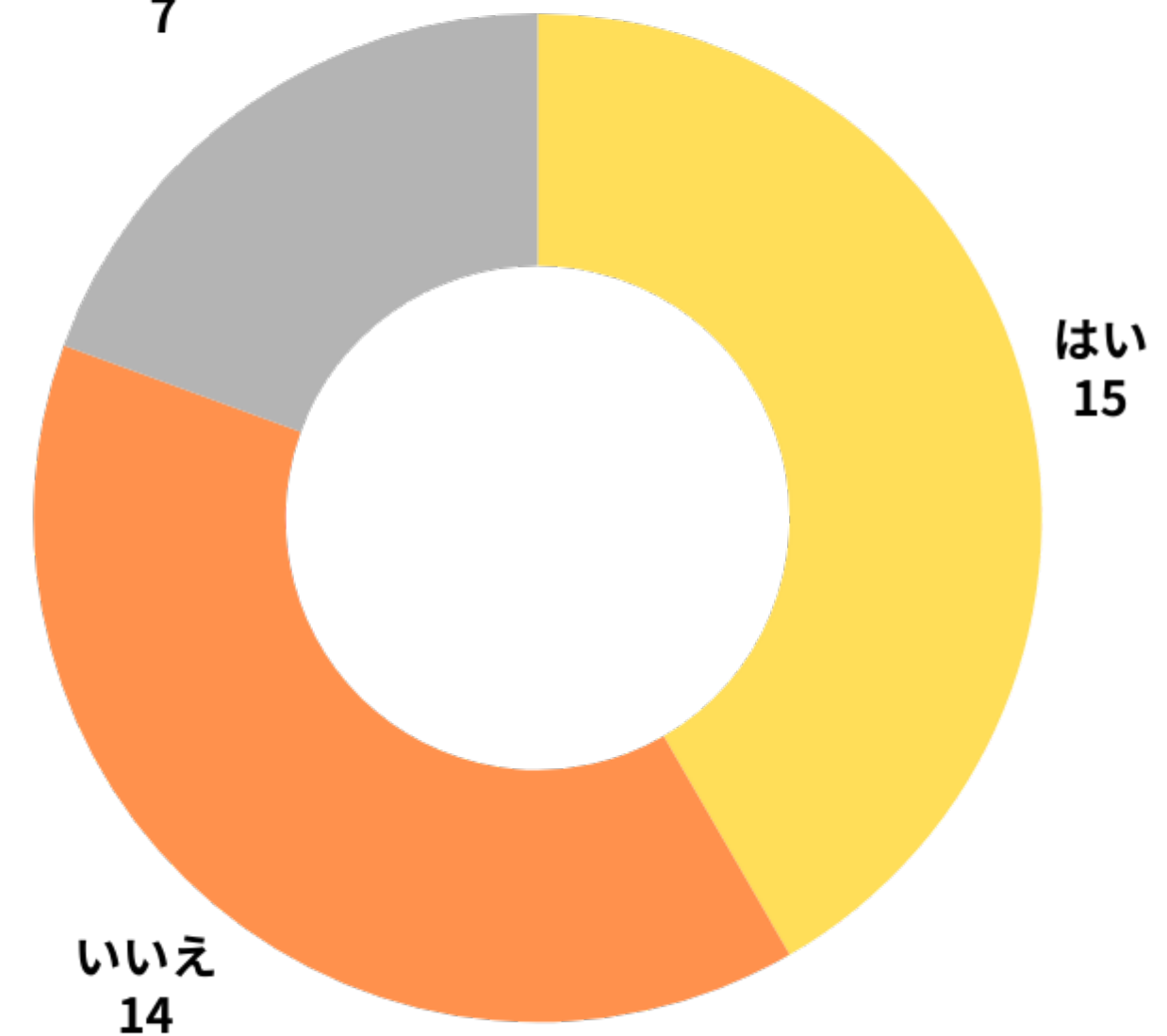
よるによる会に参加したことが「ある」と答えた方
よるによる会の運営に関わってみたいですか？

■会の運営に関わってみたいかということを尋ねる問いに、「はい」という回答が1/3程度みられた。

■会が単なる支援の場ではなく、共に作り上げる場としての性格を帯び始めていることを意味する。こうした参加者の声を反映し、役割を持って関われる仕組みを整えることで、支援を受けるだけでなく支える側としても関わる共助のコミュニティへと発展できる可能性がある。

よるによる会の運営に関わってみたいか。

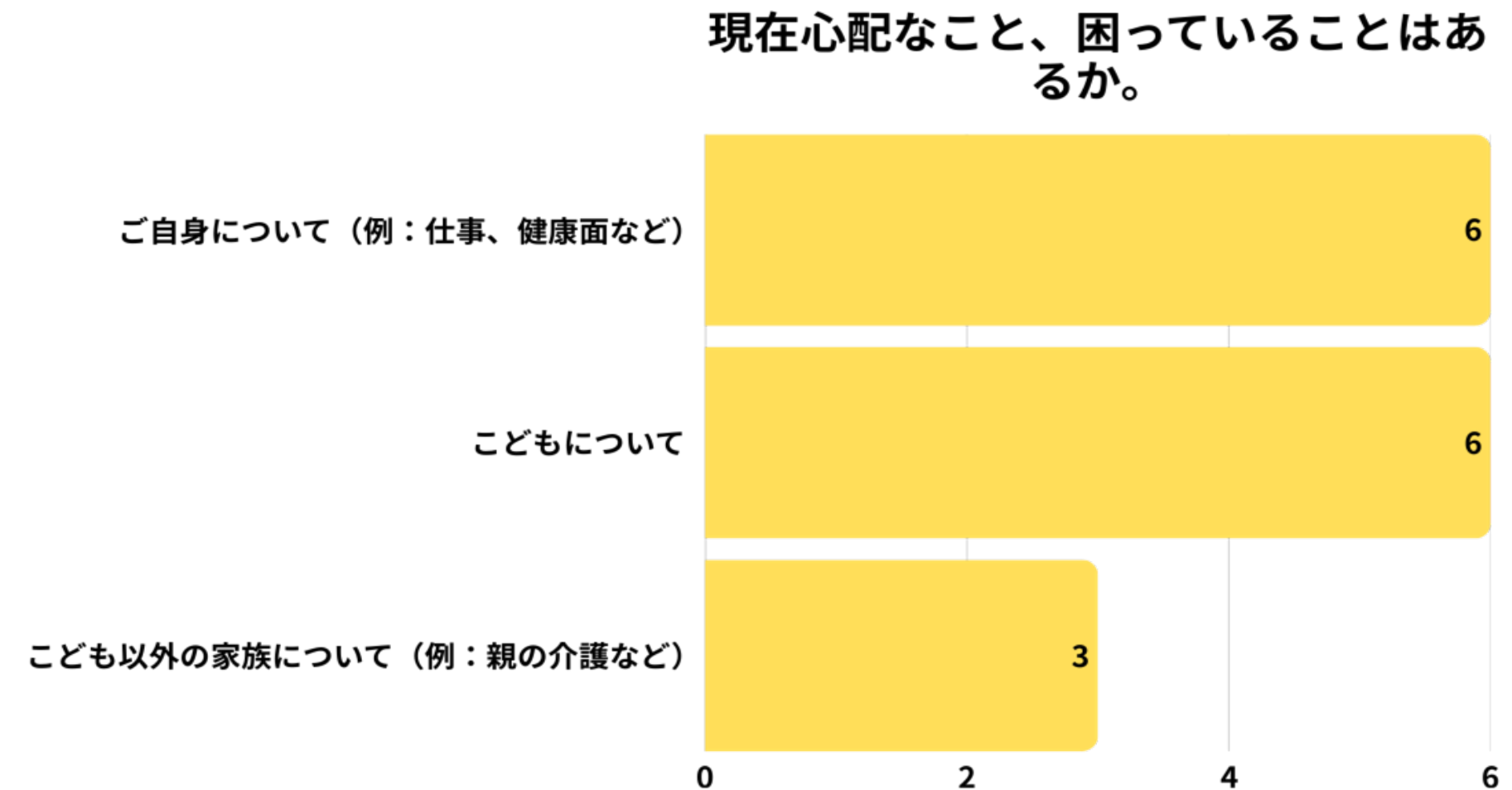
まだわからない
7



よるによる会に参加したことが「ある」と答えた方 現在心配なこと、困っていることはありますか？

■現在心配なこと、困っていることについては、「ご自身について」「こどもについて」という回答が一定程度みられた。

■経済的な困難、仕事と子育ての両立の難しさ（複数の仕事の掛け持ちや正規雇用への不安など）、子どもの発達や不登校に関する悩み（癇癪、偏食、思春期の孤立など）といった多様かつ複合的な課題があることなどが考えられる。これらは家庭単位では解決しにくく、地域や制度による支援が不可欠である。よるによる会は、こうした困りごとを安心して共有できる場としての意義を持ち、参加者同士が共感や情報交換を行うことで孤立を防ぐ役割を果たしていくことが期待される。

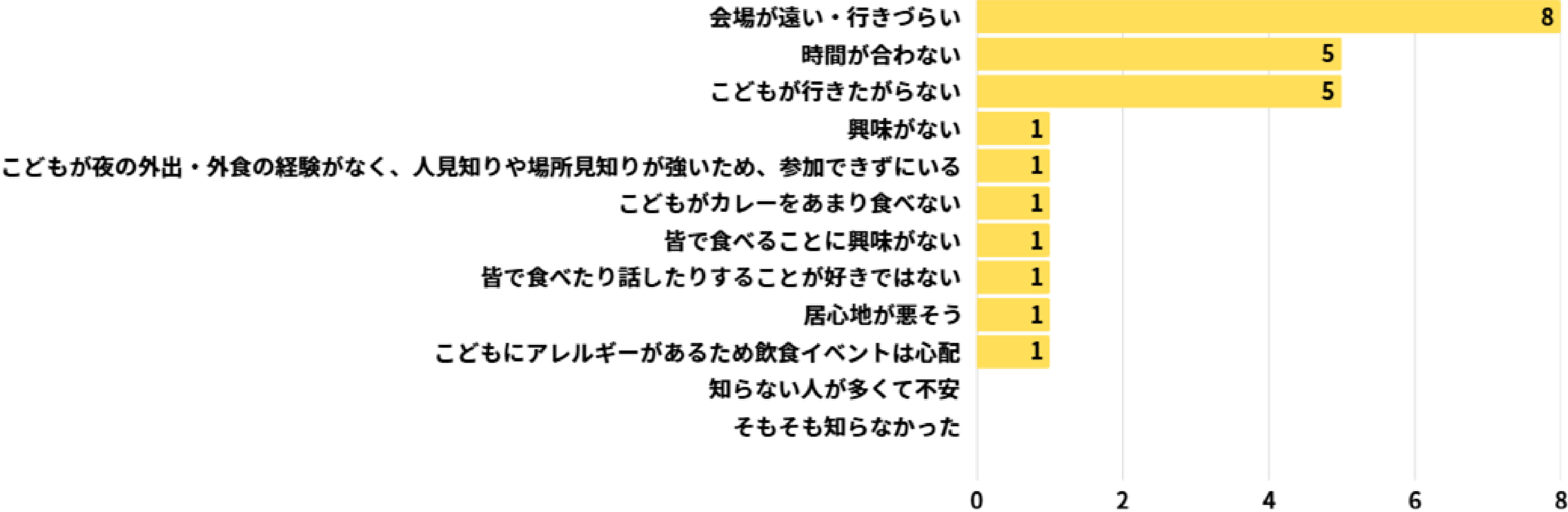


具体的な内容：

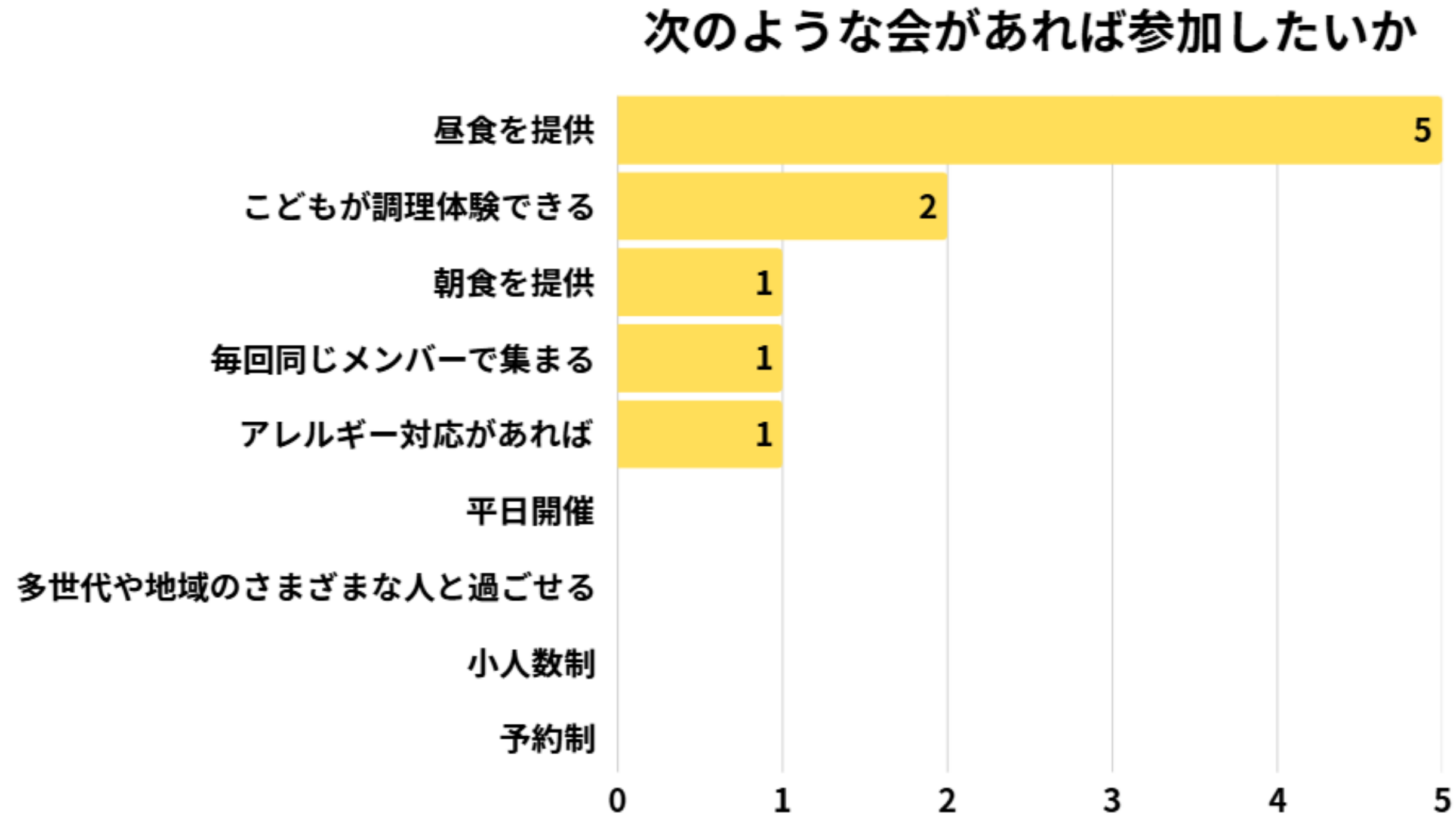
- ・ こどもに習い事をさせたいが、金銭的に難しいこと。
- ・ 義家族への支援
- ・ 次男、重度知的障害 & 自閉症

よるによる会に参加したことが「ない」と答えた方
参加しない理由を教えてください。

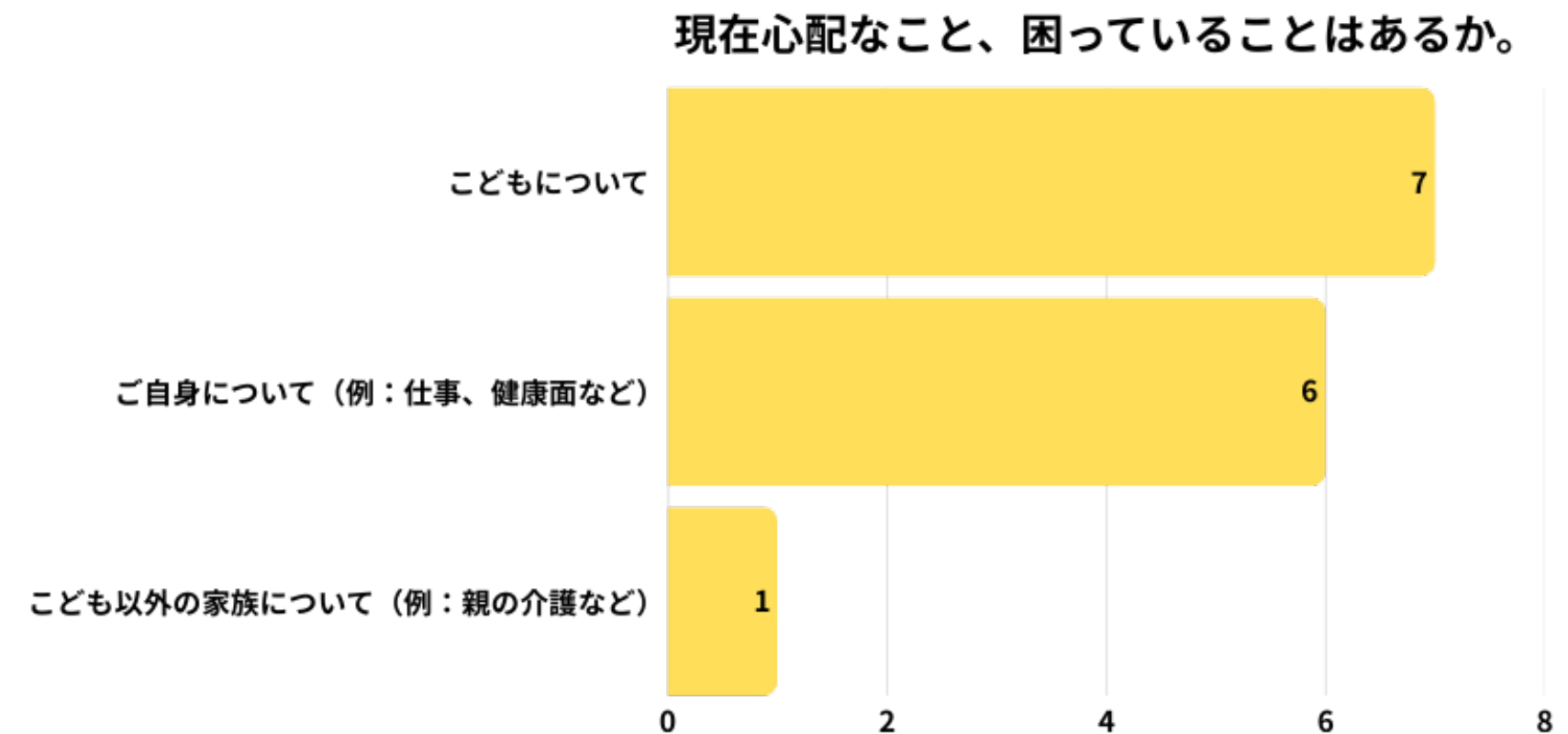
参加しない理由



よるによる会に参加したことが「ない」と答えた方
次のような会があったら参加したいと思いますか？



よるによる会に参加したことが「ない」と答えた方
現在心配なこと、困っていることはありますか？



具体的な内容：

- ・ 児童扶養手当が次年度から所得制限で外れる可能性があり、経済的支援がなくなる不安がある。
- ・ 離婚前からのパートを続けており収入が少なく、複数の仕事を掛け持ちしている。
- ・ 収入が安定する正職に就くべきか迷っている。
- ・ 高校生の息子があまり話さず、悩みや考えが分からないため悪い道に進まないか不安で、見守っている。
- ・ 支援に助けられているが、娘の癇癪や偏食に心が折れそうになることもある。
- ・ 今の仕事を続けるべきか悩み始めている。
- ・ 習い事をさせたいが費用が高く迷っている。
- ・ 不登校経験があり、再発や中学・高校選びに不安がある。

まとめ



■本調査からは、よるによる会が単なる食事提供の場を超えて、多面的な意義を有していることが明らかになった。まず参加経験の有無に関して、参加者は安心、楽しさ、居場所を感じられたといった肯定的な感想を寄せており、ひとり親家庭にとって安心感や孤立感の解消に資する場として機能していることが確認された。一方で未参加者は時間的制約や情報不足が障害となっていることも示された。この点は今後、開催形式や広報方法を柔軟に工夫する必要があるといえる。

■参加理由や魅力に関しては、食事だけでなく、地域の人との関わりを肯定的に評価する声が多く、食事を通じて安心と交流を同時に実感できることが大きな魅力となっている。また、会の参加回数を重ねることで、利用の場から、支援や関与の場へと変化していくプロセスが浮かび上がった。よるによる会が単なる支援提供の枠を超え、共助のコミュニティとして発展していることを示唆している。

■一方で、課題も指摘された。安心して居場所として利用するためには、運営体制や案内方法を改善し、心理的な安全性を確保する工夫が求められる。また、運営に関わりたいという声も一定数あり、参加者が主体的に会の運営に参画できる仕組みを整備することで、共に場を作る当事者意識を高めることが可能となるだろう。

■さらに、参加者の困りごととしては、経済的な問題（児童扶養手当の制限や習い事費用の負担）、就労と子育ての両立の困難、不登校や発達障害への不安など、多様で複合的な課題が浮き彫りになった。これらは一家庭のみでは解決が難しい問題であり、地域や制度との連携が不可欠である。よるによる会はこうした不安を共有し、情報交換や共感を得られる安心の場として機能し得る点に重要な意義がある。

■加えて、シェアねっとの食品提供サービスとよるによる会の連動は、生活全般を支える仕組みとして評価できる。食の安定支援と居場所支援が結びつくことで、家庭の生活基盤を包括的に支える効果を持ち、参加者にとって継続的に関わる理由ともなっている。特にひとり親家庭にとっては、日常の家事や経済的負担を軽減するだけでなく、地域社会とのつながりを回復する重要な契機となっている。

■以上の点から、よるによる会は、食事を通じた安心感の提供、交流による孤立感の軽減、参加回数の増加による主体的関与の促進、生活課題を共有できるコミュニティとしての機能、食支援と居場所支援の統合といった多元的な特徴を備えていることが今回の調査から浮かび上がった。

■今後の展開においては、開催形態の多様化、情報発信の強化、参加者主体の運営体制の整備などが求められる。

■よるによる会は、ひとり親家庭をはじめとする多様な家庭にとって、支援の場を超えた、共に生きる地域の居場所として発展し得る可能性を持っているといえる。